



加藤 元の



と暮らして
みませんか

10

子犬をしつける上で、飼い主は絶対に体罰を与えないようにしてください。子犬を飼い始めるのは生後60日前後が最適(人間の子供では3歳ぐらい)で、社会化期の最中がよいのです。人の子供と同じで、この時期に習得したことは一生忘れることがないのです。だから、アイコンタクトで名前を覚えたり、「お座り」「ふせ」「待て」「おいで」などがうまくできなくても、叱ってはなりません。まして体罰を与えては、飼い主への信頼を失わせ、一番大好きな人に対して恐怖心を植え付けるだけということになります。体罰では、飼い主が怖くて、ハッピーではないのですから、飼

しつけと自発性

体罰は信頼失わせるだけ

主と犬との心のチャンネルは閉じられてしまいます。犬の場合も、子供の場合も「心身表裏一体」ですから、無意識でもトラウマ(心的障害)が残ります。

子犬は遊びたい盛りですから、自分の口に合うものはスリッパでも、靴でも、なんでも噛んでしまいます。だから、子犬がさわってはいけないものを絶対に口や手の届く所には置かないことです。その代わりに、いつでも噛んで遊べるコングなどのおもちゃを与える必要があります。

子犬にはやってはいけないことは「NO」と言って、やらせないようにします。そして要請したことをうまくやれたら、すかさずほめてやります。これを繰り返すことで、自らが喜んで自発的にやれるようになるのです。盲導犬、聴導犬、介助犬、救助犬、麻薬犬、警察犬などの高度な訓練を習得した犬たちもみな、基本的にはこのしつけの延長線上にあるわけです。

しつけは、少しおながが空いている方がいいのです。満腹だと、食べ物がリーダーからのごほうびでなくなるからです。子犬はよい教育が与えられることで、家庭や社会、他の動物とうまくやっていくことを習うのです。特に四カ月までが大切です。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長、
日本ヒューマン・アニマル・ボンド・
ソサエティ会長)

《産経新聞2004年6月6日掲載》